

# そなえる



1994  
No. 86

1994年(平成6)7月20日 発行  
○発行/川崎市  
○編集/土木局防災対策室  
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
電話 (044) 200-2111 内線2840

## 暑い暑い夏休み 青い海と空が呼んでいる でも、いつでも、どこでも気をつけて

「津波」は日本だけでなく、世界中の海岸地域や島を襲って大きな被害をもたらしており、「TSUNAMI」という呼び方は、気象用語として英語やフランス語でも使われています。このように世界に名だたる津波も皆さんにとっては、台風のように頻繁に体験することはありませんので、そのおそろしさを身近に感じにくいと思います。しかし、最近の日本でも昭和58年の日本海中部地震や平成5年の北海道南西沖地震の際、地震発生後わずか6~7分で押し寄せ、多数の犠牲者を出したことは皆さんもご記憶でしょう。

そこで、今回は海辺に出かける機会が多いこの季節、「津波」について知っておいていただきたいことを一言……

なお、川崎市は外海に面していないことと、東京湾が緩衝の役割を果たすことから、津波による被害発生のおそれは、ほとんどないものと考えられています。

### なぜ起きるのか

大地震の発生によって海底の広い地域が急激に隆起や陥没することで、海水が持ち上がりたり落ち込んだりして大きな波が四方に広がって行き、海岸近くの浅いところで急に波の高さを増します。

### 高さは

海岸近くの水深が浅いほど高くなり、特に外海に向かってV字やU字型になっている湾では、その奥で波が集まり、さらに高くなります。日本では江戸時代に石垣島を襲った高さ85mが最大といわれています。(日本海中部地震で14m、北海道南西沖地震で30m)

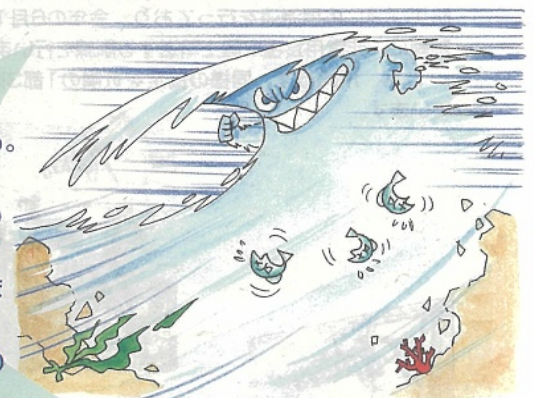
### 速さは

海の深さによって変わり、深いほど速く進みます。たとえば、水深200mの海では約160km/h、水深4,000mでは700km/hを超え、遠く南米のチリで起きた地震による津波が、わずか22時間余で日本に達したこともあります。このことから日本近海が震源の場合には、驚くほど早く押し寄せて来るおそれのあることがお分かりでしょう。



## 注意すること

- 震源地が近い場合、津波注意報や警報より先に津波の来ることがある。
  - 沿岸での震度が小さくても津波が小さいとは限らない。
  - 地震のあとで急に潮位が下がったり、沖の方からゴロゴロと雷のような音が聞こえてきたら、津波の前兆。
  - 津波は一回とは限らないので、津波注意報や警報の解除を確認するまで海岸に近づかない。
- 津波注意報・警報はラジオ・テレビなどの放送によるほか、その地域のサイレンや半鐘でも報知されます。



### 川崎市総合防災訓練(中央会場訓練)

平成6年度川崎市総合防災訓練の中央会場訓練は、自主防災組織(町内会・自治会)、防災関係機関、事業所、防災ボランティア等の約2,000人の方々の参加を得て、つぎのとおり実施する予定です。

日 時 平成6年9月1日(木) 午前10時00分から午前11時30分まで  
場 所 宮前区水沢1丁目地内(菅生緑地)

なお、当日午前8時00分~午後1時00分の間、会場及び北部市場周辺の道路は、交通規制が実施される予定です。ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

問い合わせ先 川崎市土木局防災対策室 200-2840  
宮前区役所 総務課 856-3111(代表)



だから…  
海辺で地震を感じたら、  
津波に注意 すぐ高台に避難!!



# 今こそ 備えて...



昭和39年6月16日、新潟・山形・秋田の各県を中心に強い地震が襲い、26名の死者をはじめ、主に地盤の流動化によって建物や道路が甚大な被害を被りました。この地盤の流動化とは、現在では※液状化現象といわれているもので、砂泥や地下水が地面から多量に吹き出したり、鉄筋コンクリートの建物が上部構造物はそのままの姿で地中に没したり傾いてしまったりして、私たちに驚かせました。この地震は「新潟地震」と呼ばれ、今年が発生から30年目にあたります。

幸いにして川崎市では、大正12年の関東大地震以来71年間、地震による大きな被害は発生していませんが、そのために地震に対する問題意識が風化してしまっているのではないのでしょうか。しかし、言い尽された言葉ですが、災害は忘れたころにやって来るのです。現時点では東海地震以外に発生を予知することのできる地震はありませんし、また、予知できたとしてもその発生を止めることは不可能です。そうはいうものの私たちは前述の新潟や関東地域の惨状を知っている以上、全く無防備でいるわけにはいきません。止められないまでもできる限り被害を小さく抑えるために、知っておき、やっておくべきことがあるはずで

新潟地震の例を見ても、発災直後の混乱した状況下では、行政や防災関係機関が対応できる範囲や件数は限られています。ですから、各ご家庭で電気、ガス、水道等が途絶したときのために、懐中電灯、ロウソク、カセットボンベ式コンロ、携帯ラジオ、備蓄食糧、けが人の発生用に救急用品などを備え、また、ご近所どうしの協力体制を日ごろから整え、皆さん各自がそれぞれの能力に応じた役割分担に基づいて、たとえば初期消火、避難誘導、救出救護などの応急活動を行うことができるようにしておくことが望まれます。今年も8月30日～9月5日の防災週間を中心に、皆さんがお住まいの地域をはじめ職場、学校など市内各所で「防災訓練」が実施される予定です。地震災害に久しく縁のなかつた川崎市では、今こそより多くの方がこれらの訓練に参加され、地震に関する正しい知識と意識、そして防災行動力を身につけることが必要なのではないでしょうか。

※液状化現象=飽和に近い水を含んだ砂層で、地震動により砂粒子が水中に浮遊した状態になり、重いビルなどは沈み、軽い地下埋設管や共同溝などは逆に浮き上がってしまう。埋め立て地や河川の近くの軟弱地盤地域で起きやすい。

## 川崎市と新潟・富山・山形・福井・静岡の各市は 災害時相互援助協定を結んでいます

川崎市は、昭和44年から山形・新潟・富山・福井・静岡の各市との間に「災害時における相互援助協定」を結んでいます。これは災害発生時に日用品や食糧、応急復旧に必要な資材や機材、そして人員などを相互に援助、派遣するもので、昭和56年の冬、山形市が大雪にみまわれた際には除雪作業用車両（土木事務所に配置されている道路建設用の車両）と職員を派遣しました。幸い本市への援助はまだ実際に行われたことはありませんが、毎年9月1日に実施している川崎市総合防災訓練では、各市から食糧の輸送訓練が行われています。また、本市からも例年各市の防災訓練に応援派遣を行っており、今年の6月16日には新潟市で実施された防災訓練に、非常用食糧を陸上輸送する訓練を行いました。

なお、川崎市は、同様の協定を近隣の1都3県2市や全国の12大都市とも結んでいます。



川崎市総合防災訓練における各市からの救援物資輸送訓練

## 飲み水の確保に努めています。 —臨時給水所を市内65箇所に設置—

水道局では地震などに備えて、水道施設の被害を最小限にいとめるため、施設の耐震性強化に努めています。

災害時には、給水タンク車やポリタンクなどを使って飲み水を供給できるよう努めます。また、送水管や配水管に設置されている空気弁や消火栓を利用して、臨時給水所を市内65箇所に開設することとしています。これらの臨時給水所は、皆さんのお宅からおよそ1キロメートル以内のところにあります。

市民の皆さんも、万一の場合に備えて、飲料水の汲み置きなど、普段から準備していただくようお願いいたします。



臨時給水所の給水風景

## 気象庁の大雨情報の内容が、きめ細かくなりました

気象庁は①気象レーダーと②アメダスから得られるデータに基づいて、5km四方の地域ごとの雨量の解析を行っています。今年の6月1日からは、大雨注意報・警報・大雨情報等の中で必要に応じてその③解析雨量を発表しています。このことにより、従来より一層きめ細かな大雨に関する情報が得られることとなりました。

- ①気象レーダーは、全国に19箇所設置されており、電波を使って広い範囲の雨の分布や強さを観測できますが、地上の雨量を直接測定するものではありません。
- ②アメダスは全国1,813箇所(約17km四方に1箇所)に設置された観測所で、その地点の実際の雨量を正確に観測できます。
- ③レーダー・アメダス解析雨量は、レーダーの情報をアメダスの実測雨量で修正することによって得られる雨量です。

